

## 第 3 ・ 4 学 年      図 画 工 作 科

### 1 学年の目標

<p>(1) 進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。</p> <p>(2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。</p> <p>(3) 身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。</p>
--

### 2 指導の要点

A 表 現	<p>(1) 材料や場所などを基に造形遊びをする活動</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 身近な材料や場所などを基に発想してつくること。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったりしながらつくること。</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどしてつくること。</p>
B 鑑 賞	<p>(2) 感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけて表すこと。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。</p>
〔共通事項〕	<p>(1) 身近にある作品などを鑑賞する活動</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 自分たちの作品や、身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 感じたことや思ったことを話したり友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。</p>
〔共通事項〕	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」において共通に必要な活動</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。</p>

### 3 内容の取り扱い

- (1) 個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにする。
- (2) 「A表現」の感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動については、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにする。
- (3) 材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の

学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりする。

第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにする。

(4) 事故防止に留意する。

(5) 「B表現」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり連携を図ったりする。

#### 4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
造形への関心・意欲・態度	自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。
発想や構想の能力	感じたことや見たこと、材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。
創造的な技能	手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。
鑑賞の能力	身近にある作品などの形や色などから、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりしている。